

《 第91号 》

発行：NPO富士北麓まちづくり
ネットワーク

発行日：2026年7月1日

責任者：代表理事 飯田 勇 夫

住 所：〒403-0005 山梨県富士吉田市上吉田東3-1-77

制 作：広報渉外部会

事務局電話&FAX：0555-23-0202

<http://www.mfi.or.jp/machizukuri/index.html>

ぼちぼち

NPO 富士北麓まちづくりネットワーク会報

大人のための
「まんが日本昔ばなし」

代表理事 飯田 勇 夫

物語は、2003年の未来を舞台に天才科学者・御茶ノ水博士が息子の身代わりとして造ったロボット「鉄腕アトム」を育てながら、人間とロボットの間で苦悩しながらも正義と平和のために戦う姿を描く。高い知性と10万馬力のパワーを持つ鉄腕アトムは、科学の倫理や人間性の問題に直面する存在として漫画化され、当時の小中学生に多大な

影響を与えたのである。

初夏の彩り 鐘山の滝



著者「手塚治虫」氏によつてこの世に生まれ、初版は1952年（昭和27年）というから当時50年後の世界を見据えたSFヒーローマンガドラマ。すごいのは1950～1960年代に今でいうAI、コンピュータ制御やロボット倫理

に近いテーマを先取りして描いていることにある。

この時代、電話機はダイヤル式ではなく交換手を通して回線を接続する時代。ましてや日本ではコンピュータなど存在しないときに電子頭脳や人工知能に近いテーマを取り上げ、漫画の世界ではあるがコンピュータで制御された工場の機械がパUNCHカード（当時の電子計算機に力する媒体）を何者かによつて改ざんされ機械が暴走する物語や、時計型の通信機器で会話をしたりなどなど、いつしか漫画の世界にのめりこみ、幾度となく親に「漫画ばかり見てないで少しは勉強しろ！」

今考えると、作者が75年前にタイムスリップして描いたのではという錯覚にとらわれるのは、私だけだろうか？

戦後間もない日本で作者が描いた「鉄腕アトム」は単なる未来ロボットではなかった。

物語のテーマは「科学で人を幸せにできるだろうか」という問いそのものである。

二十一世紀となった現在、私たちは手塚治虫氏が想像したSFの世界にはいりこんでしまっている。

しかも現在は便利さとともに不安も抱えている。AIが仕事を奪うのではないか。機械に心

ポチたまの部屋

2月末、首相官邸前で「戦争反対」「改憲反対」のデモがあった。新聞によると参加者は約4千人。その後、場所を国会前に移したが、3月10日が約8千人、3月25日が約2万4千人、4月8日が約3万人、4月19日が約3万6千人。一部の新聞は「平和が崩れる危機感集う」と伝えたが、ニュースを扱うメディアの対応の鈍さにはびっくりした。そんなことはないと思うが、もし、高市一強政権への付度があるとすれば、極めて由々しきことになる。

(A)



は生まれるのか。人間とは何か。これらは「鉄腕アトム」の中で何度も描かれたテーマであった。だが、彼の本当の強さは「優しさ」にある。人間に傷つけられても人間を信じ続ける「心」がある。

現代社会では、技術の進歩が速すぎるあまり「心」が置き去りにされる事があり、その言葉が鋭く飛び交い、人間同士のぬくもりが薄れ「信頼関係」が保たれなくなる。

日本中を震撼させた巨人軍監督の逮捕がその例だろう。さらに世界情勢に目を向けると、戦争や環境問題、少子高齢化など多くの課題が山積みされている。こうした問題を解決するためにAIやロボット技術への期待が高まっているが、技術だけで全てを解決することはできない。大切なのは、それを使う人間の判断力や倫理観である。

アトムは強い力を持ちながらも、人を助け、平和を守るため行動をした。そこには科学技術は人類の幸せのために使われるべきだという作者の強い願いが込められている。

ぼくやよい子だねんねしなうで始まる「まんが日本昔ばなし」に深くかわり、富士吉田市ゆかりの人物として知られる前田康成氏は、絵本作家であり、「まんが日本昔ばなし」



NPO スタッフと前田康成氏

の作画、演出を長年担当された方である。2016年、当NPOが企画した「教養講座」で講演して頂いた。しかし「大人のためのまんが日本昔ばなし」と記憶している。

制作過程の裏話や、テレビの向こう側にいる子供たちに訴えかけたのは、人のぬくもりであり「心」であり、そして「信頼」をまんがを通して伝えることだという。

ジャンルは異なるが、両作者に共通したテーマは人間の「心」、それもそのはず前田康成さんも同じ「虫プロダクション」に在籍し、一緒に仕事をした経歴の持ち主だと聞く、どこかの大統領のように、自分に不利な判決を下した裁判官や検事に「魔女狩りだ！」とSNSでののしり、はたまた、AI生成画像で自分をキリストに見立てて世界を救っているのはこの俺だと言わんばかりに発信し、世界中からヒンシュクを買う、科学の進歩を侮辱するこんな人間にはなりたくないものだ。



電話 & FAX: 0555-23-7252

E-メール: akaiyane@mfi.or.jp

ホームページ: <http://www.mfi.or.jp/akaiyane/>

青少年センター赤い屋根 センター長 齋藤容子

ロコミやポスターの効果で子ども食堂はコンスタントに利用が増えてきています。大学生やスポーツクラブの応援もあり、毎回活気にみちているのは本当にありがたいことです。

【自主事業の報告】

みんなの食堂+子ども食堂

(4/17 絵手紙) (5/15 ドローン体験) (6/19 能登の語り部会)

5/23 NPO富士北麓まちづくりネットワーク 総会

6/ 5 中央社会学級「やさしい茶道」 (全10回)

6/ 6 富士山ジュニアカレッジ「子ども茶道」 (全5回)

6/23 害虫駆除+レクホールのワックス塗布

6/27 親子バドミントン教室



【継続の自主事業】

* テディベア (バドミントン)

毎週火・金曜日 13:00~16:00

* 沖縄三線サークル (あすびどうし)

隔週 水曜日 10:00~11:30

* 音楽サークル (オルケスタ若草)

隔週 水曜日 13:00~15:00





先行きが見えない時代だからこそ 次の世代に引き継ぎたい地域の財産

会 員 水 越 欣 一

2026年6月現在、私たちはかつてない不透明な時代の中にいます。2月末に発生した中東情勢の緊迫化は、私たちの生活を直撃しました。原油価格は今（6/12 現在）でこそ1バレル85ドル台ですが、一時は120ドル台をうかがう勢いで急騰し、為替相場も1ドル160円を超える歴史的な円安水準となっています。世界がこれほど大きく揺れ動く今だからこそ、私たちは自分たちの足元にある「地域の宝」を再発見し、その価値を次世代へつなぐ必要性を強く感じています。

私は、3年前から富士山世界遺産協議会作業部会の委員として、富士吉田市民を代表して意見を述べる役割を担っています。富士山が2013年に世界遺産に登録されたのは、単に山が高いからではありません。「富士山—信仰の対象と芸術の源泉」という名称が示す通り、富士山を敬う人々の心と、そこから生まれた豊かな文化が評価されたからです。この「普遍的な価値」は、25の構成資産だけでなく、麓で暮らす私たちの日常の営みによって支えられています。

その一つが、1000年以上続く「ハタオリ」の伝統です。富士山の豊かな伏流水を活かし、先人たちは困難な時代を何度も乗り越えて精緻な織物文化を築いてきました。現在、この産地では、機織りを社会学や経済学など多角的な視点でまとめた教科書『ハタオリ学』が制作され、2024年にグッドデザイン賞を受賞しました。この本は、将来の世代が自分たちの故郷の価値に気づくための「情報のタイムカプセル」として、未来へ種をまく取り組みです。



写真：ハタオリマチのハタ印 HP より



また、私たちの誇りである「吉田の火祭」も欠かせません。富士登山の「山じまい」を告げるこの祭りは、重要無形民俗文化財として認められ、今も地域コミュニティの強い絆（社会関係資本）を育んでいます。祭りを支える「世話人」の奮闘を大切に守り続ける人々の姿は、不確実な未来を生き抜くための本当の強さを教えてくれます。

今、世界が注目するSDGs（持続可能な開発目標）の本質は、単なる経済成長ではありません。家庭や地域の絆を基盤とし、環境と調和しながら自立した社会を築く「日本型SDGs」こそが、今の私たち求められていると思います。

先行きが見えない時代だからこそ、先人たちが守り抜いてきた歴史、文化、そして富士山の恵みを、新しい知恵とともに次の世代へと手渡していきましょう。

地域の財産を慈しみ、分かち合う心が、足元から「平和」な社会を築く確かな一歩になると信じています。その確かな「財産」が、いつか必ず、若者たちが未来を切り拓くための糧になると信じています。

（以上）



世相を斬る！

「食料品消費税8%ゼロ」から高市政権を見る

会 員 秋 山 紀 勝

2月の衆院選で高市早苗首相が公約した「食料品消費税8%ゼロ」が迷走している。あの衆院選で食料品消費税に関して「ゼロ」または「減税」を言わなかったのは、主要政党の中で「チームみらい」だけだった。自民党の高市首相は「食料品消費税8%ゼロは悲願です」とまで言い切った。

選挙の結果は、自民党が単独で3分の2（310）を上回る316議席を獲得した。この議席数は1955年に自民党が誕生して以来最高の数字であり、その意味は極めて大きい。衆院で可決された法律案が参院で否決されても、衆院で再審議して3分の2以上で可決されれば成立するからである。つまり自民党は、「どんな法律」でも単独で作れる魔法のような議席数を手に入れた。



さて、「食料品消費税8%ゼロ」であるが、5月20日の党首討論で高市首相は「関連法案を国会に提出する」とは言ったものの、具体的な時期は言わなかった。

この物価高の折、有権者の中には2月8日の衆院選で「食料品消費8%ゼロ」も考慮して自民党に投票した人も多かったのではないかと。高市政権は2026年度当初予算案をかなり強引な手法で衆院を通過させたが、「食料品消費8%ゼロ法案」もこの奥の手を使えば7月17日の今国会最終日までに約束が果たせると思う。



古代中国の思想家・孔子は、弟子から「国を治める者は、軍備、食糧、国民の信頼、の3つの中で、ひとつを捨てるとしたら何か」と問われて『軍備』と答えた。もうひとつ捨てるとすればと問われて『食糧』と答えた。その理由として『国民の信頼がなくなれば国が滅びる』と言った。食糧があっても「国民の信頼」が無くなれば、国が無くなると諭したわけだ。

孔子を持ち出すまでもなく、高市首相は衆院選で「悲願」とまで言って有権者と約束したことは是非、実行してほしい。

この原稿を書いている2026年6月15日時点で、「食料品消費税8%ゼロ」は立法化されていないどころか、「2027年4月から1%でスタート」とするという「案」が自民党内で議論されていると、新聞記事が伝えている。



(以上)



事務局だより

NPO事務局 渡 邊 義 広

第24回定期総会の開催と新役員体制の発足！

新緑の美しい季節を迎えた5月23日青少年センター「赤い屋根」において、第24回定期総会が開催された。開会に先立ち、この春逝去された法村香音子氏に出席者全員で哀悼の意を捧げた。正会員数61名のうち出席者28名委任状による29名で総会は成立した。

議長には佐藤安子氏が選任されて議事進行が図られた。当日提案された2025年決算・役員改選・2026年予算は意義なく無事に承認された。

役員改選では、佐藤美瑛恵氏、小野博章氏が退任され、新たに渡邊明美氏、榊三男氏が理事に就任された。さらに、会議を休憩して臨時理事会が開催され、代表理事に飯田勇夫氏が互選により、副代表理事に齋藤容子氏が指名により選出された。



2026 年度の新理事及び監事

理事の榊三男さんが
新理事の撮影時欠席
のため自画像を提供



議案審議の中では、
指定管理者としての

今後の対応について質問があった。代表理事が昨年の青少年センターの指定管理騒動について丁寧な説明を行った。

総会閉会後には、赤い屋根食堂において懇親を兼ねた食事が開かれた。お弁当を楽しみながら近況報告や時事放談やらあちこちで話の花が咲き、にぎやかに総会は終了した。

残された指定管理期間とNPO法人としての新しい一歩を!!

今回の総会では指定管理に関する質問が会員から出た。このことから会員各位の関心の高さと危機感は相当大きいと感じている。現実として施設利用の予約を受けるには来年春が施設管理のタイムリミットである。

本NPO法人は設立以来、その設立趣旨を基本に据えて、国際交流都市の実現と心豊かな地域社会を創出するため真摯に富士北麓地域と向き合ってきた。

その実績と信頼が認められ、現在は「青少年センター」と「市民ふれあいセンター」の2つの施設において、市の指定管理者として管理運営という重要な大役を果たしている。

施設運営に当たるスタッフのきめ細やかな対応と熱意により、市からの業務評価でも常に高い評価をいただいていることは、私たちの大きな誇りであり、会員のたゆまぬ努力の賜物であると確信している。心より深く敬意と感謝を申し上げる。

しかし、高い評価をいただいている一方で、私たちは今、一つの大きな転換期と直面している。それが青少年センターの「施設の老朽化」に起因する将来の不透明さである。

現在、市では市全体の公共施設の更新（建て替えや廃止など）の検討が進められており、それに伴い、3年後にある指定管理の更新がどのような形になるか、現時点では明確な見通しが立っていない。こうした状況下で、「これからどうなるのだろう」「私たちのNPOは存続できるのか」と、会員の間に不安や危惧が広がっている。

ここで強く訴えたいことは、たとえ「建物の形」が変わる可能性があっても、私たちがこれまで培ってきた「人と人、地域と人を繋ぐ力」の価値は決して色褪せないということである。

行政や市民が真に評価し、必要としているのは、ハコモノとしての施設そのものだけでなく、そこを温かい交流の場へと変えてきた「私たちの運営能力と情熱」である。

そこで、先行きが見通せない激動の時代だからこそ、一歩先を見据えた「攻めの備え」をする必要がある。

3年後にどのような選択肢が提示されても、私たちの組織が「現代のニーズに対応できる柔軟性と、次世代に繋げるパワー」を兼ね備えていれば、市に対しても、市民に対しても、より強力な次の一手を提案していくことができる。

そのためには、組織の若返りを目指し、持続可能性を高めておくことが、本NPO法人を存続させる最大の武器になる。3年後の壁を突破するための大きな推進力となるのである。

若い世代に呼び掛けて組織に加わっていただくことは、現代の多様なライフスタイルに合わせた青少年育成や市民交流の新しいアイデアを生み出す原動力になる。

身近な若い世代を活動に誘ってみる、SNSの情報発信力を高める、新しいアイデアを歓迎する雰囲気を作るなど、できることから始めてみませんか。

10年後も地域から必要とされ、輝き続ける団体であるために、共に未来へ向けた新しい一歩をみんなで踏み出しましょう。

FUREAI
LETTER

あつたかな

街を

つくる

仲間
たち



竹の花太極拳

代表 深沢 恵

私達、竹の花太極拳は2001年20名の会員で立ち上がったものです。名前がユニークなことから今も聞かれますが、これは当時会員が多く住んでいた地名から付けたものです。

太極拳はもともと武芸から始まったもので、そのため練習の基本は体幹や筋力を鍛えることにあります。中でも呼吸法は特に重要で、これは緩やかな動作から身に着けていくもののため健康にも有益だと云われています。女性には特に適しているのではないのでしょうか。

目標は年一度開かれる大会でよい成績を上げることです。興味のある方には是非仲間になっていただきたいと思います。



市民ふれあいセンターだより

ふれあいセンター長 佐藤 雄三
TEL 0555-22-1785